

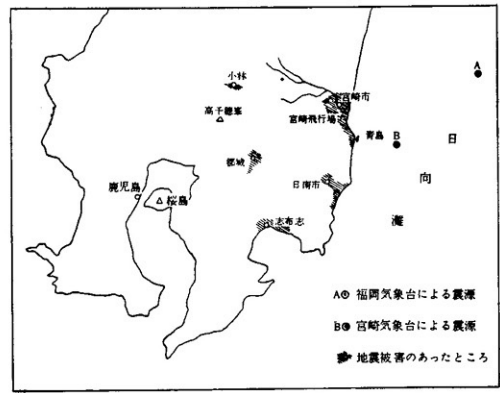
現地ルポ 日向灘地震を見る

去る2月27日早朝 宮崎県南部から鹿児島県東北部にかけてかなり大きな地震があった。この地震は日向灘地震と呼ばれることになった。震度Ⅴで午前3時11分ごろ発生し地震動の変化はきわめて急で 振幅も大きかったので 現地の人々はびっくりしたようである。この地震は約5分間続き家屋などの動揺はきわめて激しく土壁・屋根瓦の剥落やタンス・テレビなど 比較的安定度の大きいものまで倒れ あるいは落ちたので ほとんどの人は着のみ着のまま 戸外へとび出したという。

震源は 福岡管区気象台の推定では 宮崎市東北東約60軒 深さ10軒である。一方宮崎気象台では宮崎市南東35軒と発表している。いずれも 海岸線をへだたる20~50軒の海中である。地震後の新聞・テレビ等の報道は 沢山の地割れ かなりの落差を伴う小断層の出現などのため 相当の家屋の被害や地変があったことを伝えている。

日向灘地震のマグニチュード（地震の大きさを表わす量であって 統計的にみて 7.0~7.4 以上の地震には断層を作ることが知られている）は7.2であり 統計資料から推定すると おそらく震源付近では断層ができていた可能性が強いが 何分にも海岸から相当へだたる海中のため 断層が陸上にのびる可能性は小さいと思われる。しかし これらのニュースはあたかも地震断層ができたかのようであり 地変も著しいようであったので 急ぎよ現地におもむいた。

現地の被害は地震の大きさに比べて 思ったより軽微であり 地震断層も発見できなかった。しかし崖くずれ 小さな割れ目等は宮崎・鹿児島両県にわたって か



日向灘地震概況図 (36.2.27)

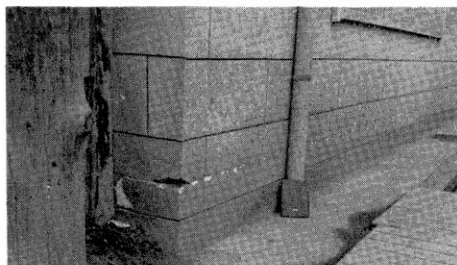
なり多く見られ 地震の激しさの一面をのぞかせている。被害 地変から見て影響の最も大きかったのは宮崎市周辺であり とくに飛行場と大淀川付近が 最も著しかった。飛行場では北東・南西の割れ目が幾条か走っているようで 滑走路はこの方向の裂罅で相当破壊されていたが 一週間後には飛行機は発着していた。

大淀川付近では 西北西~東南東のほぼ大淀川に平行する方向の弱線があったようで 南北の兩岸一帯は倉庫の倒壊2棟を含めて 壁のヒビ・家屋の半壊等 この地震で被害が最も大きかったところである。堤防・水田に生じた割れ目もこの川岸に沿って多かった。

建築物の被害の少なかった一因としては 宮崎から日南にかけては 有名な鉄肥杉の産地であり この杉を豊富に使用した堅固な建築であることもあげられるであろう。また 地変現象 とくに多く見られた崖くずれ道路の決壊などに この地方特有のシラスが大きく影響を与えていることも見のがすことはできない。

なお 地震に伴って天然ガスが噴出し始めたところがあることは注目すべきことである。

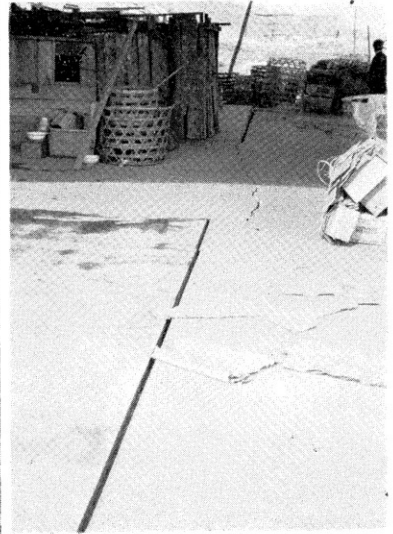
青島中学校では従来から鉱泉が噴出していたが 地震後水量が倍増しガスが出てきた。また 日南市の貝島1号井はほとんど空井戸の状態であったが 地震後2.3日激しい自噴を行なった。(燃料部 石油課 星野一男技官)



上 倒壊したレンガ建倉庫
下 ある医院のコンクリート壁 その土台に水平の亀裂が入っている



日豊本線大淀川鉄橋下の水田に生じた割れ目 幅20cm 長さ10m 泥水を含んだ砂が噴出し ている



大淀川橋橋下のコンクリート床が河川に平行 にび割れして、その南側(河川側)が最大15cm 沈下している